



日本語の危機を憂える

近年、全国的に小学校の教科のひとつに「英語」が生まれ、更に文部省の学習指導要領では平成23年から正式な学習科目として採用されるに至りました。

しかし、既に都道府県によっては英語が必須科目として取り入れられ、「総合的な学習の時間」として過半数の小学校で実施されていると聞いております。

本県はそうした流れの中では喜ぶべき「後進県」であります。

静岡大学の白畑知彦教授が、その著書「英語習得の常識と非常識」の中で小学校4年以降に週1時間、英語を学んだ子供と学ばなかった子供について、中学1年の冬に英語力を調べました。その結果は英語の学力には殆ど差はなかったとあります。

更に多くの学者から小学校での英語教育の必要性に疑問の声が上がっているところでもあります。

古い話で恐縮ですが、「福翁自伝」の中で福澤諭吉は英語教育に熱心な慶応義塾の学生について「英書は読めても日本の手紙が読めない少年が出てきた」と嘆いていると、司馬遼太郎はその作品の中で紹介しております。

実は「小学生に英語教育」という命題に対し、私もまた、本当に必要なのか、これまで疑問を抱いてきたひとりです。寧ろ、今、小学生で学ばなければならない勉強は基礎的な日本語であると確信します。

◆言葉は文化の源泉

正直云って、携帯電話の普及と進歩によって極く平易な語彙だけで要を足りる社会になり、しかも、子供たちの親すら言葉の大切さに気を使わないう生活であれば、日常会話での文法や、敬語・謙譲語などの使い方が極めて曖昧になってまいりました。

その結果、語彙の少ない若者達の世界に急激に氾濫してきた「理解できない日本語」と「不必要な外国語」について老婆心ながら憂えるのであります。

秋場所も優勝を掻つ攫った白鵬の故郷モンゴルはもとより独自の公用語「モンゴル語」を持っています。

そのモンゴル語の欠陥は語彙が少なく、近年の急激な変革に対応できず、隣国でもあり、馴染みある「ロシア語」をそのまま受け入れ、その結果、ジンスカンと孫のフビライによって築かれたモンゴルの歴史的伝統や文化は衰退していったのであります。

日常生活に発せられる日本語の語彙は通常400〜500語と云われておりますが、最近の若い世代の会話には遥かに少ない語彙で、しかも若者用語という私達には不可解な言葉が横行しているのではありません。

◆外来語の氾濫

更に外国語の氾濫は「日本文化」として「がん細胞」にならないければと私は危惧しております。

昨日のテレビの中でも、司会者が三択問題に迷うタレントに「そろそろ、どれかチョイスして下さい」とせき立てておりました。「チョイス」という英語を使わなくても「選択」と云えばいいのではありませんか。

また昨日の夜、小泉元総理が突然の引退を表明、早朝のテレビでは一斉に「サプライズ」を使用しておりましたが、様々な場面に登場するこの言葉に辟易する昨今ではありませんか。

勿論、日本語に変換し難い横文字、例えばフランス語の「ニュアンス」は日常使われる言葉でありながら、これに適する日本語が存在せず、そのまま使用する事もあります。今日のように外来語の乱用は結果として「日本文化」の崩壊を招くことに繋がると考えます。

言葉はその国を形成する血液と云っていいでしょう。

外圧によって開国した明治の先人は全く無知の、しかも途方もない新たな知識、文化に翻弄されながらも、適切な日本語を作成していったのであります。勿論容易な仕事ではないでしょうが、時代の変遷の中で誕生する全ての事象に適確な日本語を作成する事もまた、現在に生きる我々の務めではないでしょうか。



浦野鋭翁の町名つくし(後編)

先月号では、明治期、駿河学問所の教授の後、静岡師範・静岡中学の教諭として、本市の教育に貢献された浦野鋭翁氏が静岡の町名を詠んだ「静岡往来」なる文章の前半をご紹介します。

長文ですが、今では無くなった町名も多数出てきますので一読戴ければ郷土史の一端をご理解戴けるものと存じます。どうぞ「後編」をお楽しみ下さい。

千さとも廻る車町 荒神堂を打過て
上魚町や茶町とて 春は賑ふ上桶屋

土太夫町も秋はまた いつか色付柚木町

後の方は大通り 是草深の代地也

安西通五丁有 歩みもおそき牛町や

人の門守 戊の方 宮ヶ崎なる報土寺の

つきぬ御法に安倍町や とりも片羽を休

むるなる

材木町や、瑞竜寺 門前町や 裏の町

誓も深き井宮の 弓手に高き妙見山

さて亥の方を見渡せば 秋は露置く草深に

月もやどるや御器屋町 奈古屋町の宮も

遠からず

賤機山の麓には 浅間大神の大神有

春は殊さら賑はしく 当国一の宮造り

隣に並ぶ宗持院 東照宮の鎮座也

北は宮内 天神原 はるの桜にこぎ交し

柳小路や入小路 月は朧に丸山の

霞める方を臨濟寺 後に高き城山は

今川公の古跡とか 春に花咲 御薬園

北安東や 長谷寺 其名も猛き寅の方

来迎院や先の宮 熊野の宮を限りにて

東西南北 おしなべて 往来賑ふ 民草

は豊けき御代の御恵 誠に以て 有り難く

ためでたくかしこ。

一寸一言 私の雑記帳から

日本酒について

生れてこの方、私が飲んだ全ての酒を集めたとしても、恐らくビール瓶一本半程度でしょう、それほど下戸の私が、今回は敢えて「日本酒」について知識の断片を記してみます。

「白玉の歯にしみ通る秋の夜の酒は静かに飲むばかりける」とか「酒なくて何のおのれが桜かな」など、わが国では酒を愛でる歌や言葉が遙か神話の時代から詠まれて参りました。

さて、日本における酒造りは既に縄文時代から盛んに行われていたと古代遺跡の研究者の指摘する処であります。

勿論、その時代には「米」は未だ伝播しておりませんでしたので、酒の原料はスモモやアンズなどの果実を主体として、

木の実や芋類までも材料にしております

した。

「日本書紀」に記述されている須佐之男命が大蛇に酒を飲ませて退治

した話も日本酒ではなく果実酒でした。

仁徳天皇の時代に中国や朝鮮から多数の醸造工が渡来したことが記録にあります。この事から日本酒も大陸から渡

ってきた酒と云えるでしょう。

ところで、日本酒の銘柄に「菊正宗」や「沖正宗」など「正宗」とつく名前が多いと思いませんか？

これは神戸の山邑酒造の「桜正宗」が元祖です。山邑家の主人がある日、臨

濟宗の寺を訪ねた時、臨濟正宗の経文を見て、「正宗」の語呂が清酒に似ている

ことをヒントに「正宗」の二文字を引用、爾来、清酒の代名詞として使われる

ようになりました。



「ブルータス、お前もか」—麻生総理の嘆き節—

Shingo—Scopeの草稿が遅れた結果、あほらしい「中山成彬国土交通相」の辞任問題について書き加えることができました。

ただ一言「本当に情けない」の一言です。大臣指名の段階から超右翼的な彼の言動は、同僚議員も訝っていたが、まさか元大蔵官僚、しかも小泉内閣では文部大臣も経験しており、この時期であれば更に弁えた言動を取るものと誰もが考えていたのでした。

「親の心子知らず」とは将にこの一事、麻生新内閣の誕生によって、微力な私達も、徹底的に叩かれている自民党を立て直すべく模索している最中の彼の行動は、恰も立て並べ始めた「ドミノ」の一つをひっくり返すような言動でした。

妻・中山恭子首相補佐官の活躍ぶりに対し、亭主として、時にテレビや新聞の話題に登場したかったのかもしれない。

お陰でわが自由民主党は、今、国民の冷たい誹謗と眼差しの中でこの総選挙を戦う羽目に陥ったのでした。

『天野進吾』の歴史講座

町内会の集会、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。大変ありがたいことにこのSHINGO・SCOPEの郷土史が好評を頂いております。どうぞ、お気軽にお声掛けください。